議事録

主題： 令和3年度 第一回大津町振興総合計画等評価委員会

日時： 2021年11月1日(月) 10:00 ~12:00

場所： 大津町役場 3階 会議室302

出席者 (敬称略)	評価委員会	黄在南委員長、家入立身副委員長、松本光行委員、小西悦子委員、吉田和信委員、松本カズヨ委員、橋本千春委員、山下和貴委員、中尾精一委員、宇野馨委員
	大津町役場	金田英樹町長 藤本総務部長 総合政策課：木村課長、濱洲審議員、山田主幹、田邊参事、桐原主事 ほか関係各課
	NTTデータ経営研究所	大野、坂田
欠席者 (敬称略)	國武幸弘委員	
配布資料	・令和3年度 第1回大津町振興総合計画等評価委員会 次第 ・令和3年度 大津町振興総合計画等評価委員会日程表 ・大津町振興総合計画等評価委員会設置要綱 ・大津町振興総合計画等評価委員会委員名簿 ・大津町振興総合計画等評価委員会座席表 令和2年度 施策評価資料	

議事内容

1. 開会

2. 町長挨拶

- 現振興総合計画は平成30年度から令和7年度までの8年計画であり、町の最上位計画いわゆる羅針盤である。
- この3年半、コロナ等の影響もあり進捗しているものもあれば、そうでないものもある。そうした中、今年度は後期の4年間に向けた計画策定の年となっている。
- これまでの計画は、評価指標が合致していないものがあったり、計画自体が職員はもとより住民の皆さんにも浸透していない状況であった。このあたりをしっかりと見直していきたい。
- 見直しの前提に立つのは、現計画の振り返り。様々な立場にある皆さま方から忌憚のない御意見をいただきたい。

3. 委員長挨拶

- コロナのようなウイルスはコロコロと姿を変え、生き延びてきた。人間はその場その場で姿を変えることができない。それゆえ、勇気と知恵を持ってこれまで生き延びてきたのではないかと思料する。
- ある機関の報告書では、熊本県のいくつかの町が消滅するとの話がある。幸いにも大津町はそのリストに

入っていない。しかし、今後何が起こるかは不明。

- このような時代であるからこそ、皆さま方の勇気と知恵をお借りして、何が起こっても対応できるように強靱な大津町を作っていただきたい。

4. 議事

事務局より以下のとおり順次説明。

- ① 配布資料の確認
- ② 議事録の公開について
 - 審議会等の会議は原則として公開することとしており、議事録は町ホームページなどを通じて公表する。公表することについて委員の見解をうかがいたい。
 - 意見なしのため公開とする。
- ③ 施策評価について
 - 委員会設置要綱の第2条では、(1)総合計画の進行管理に関すること及び(2)総合計画の評価に関することになっている。職員による内部評価について、委員の皆さまから意見を伺い最終的な評価を作り上げたい。
 - 振興総合計画の基本構想を大きく6つに分けたものが施策の大綱。施策の大綱をさらに詳細に分けたものが基本施策である。
 - 本日は、施策の大綱の1と2についてご説明したい。大綱の3は教育委員会の外部評価委員会にて評価を行う。明日は大綱の4と5をご説明する。なお、大綱の6は大綱の1～5にそれぞれ含まれるため、こちらに特化した説明は行わない。
 - 各施策の評価の基準としては、「必要性・有効性」と「効率性・進捗性」クロスさせA B C Dの評価としている。
 - 具体的には以下のとおり
 - 「必要性・有効性」が高く、かつ「効率性・進捗性」高いものはA評価
 - 「必要性・有効性」が高いものの、「効率性・進捗性」が低いものはB評価
 - 「必要性・有効性」も「効率性・進捗性」も低いものがC D評価
 - A評価は、進め方及び予算規模はそのまま
 - B評価は、進め方を見直し、予算規模はそのまま
 - C D評価は、進め方及び予算規模、いずれも見直し

<大綱「1. 産業」分野について>

- 1-1-1 農業生産基盤の整備（評価A）
 - 特になし
- 1-1-2 農業の発展と魅力ある農業を創造する多様なひと・しくみづくり（評価B）
 - 特になし
- 1-1-3 地域に適した生産の振興と流通の促進（評価A）
 - 特になし
- 1-1-4 農地の保全と有効活用（評価A）
 - 近年、イノシシに加え、鹿もアナグマもサル増えた。電気柵だけではなく鉄柵についての検討はどうか。（委員）

- 今年度は予算を増額し、補助事業への助成を拡大している。新たに地域駆除隊という各行政区単位での駆除の取り組みとして今年度、6 地区で立ち上げたところ。多面的機能のところでお取り組みいただいている。今後も拡大していきたい。鉄柵については、国庫補助のメニューにあるので事業実施は可能。地域の方と相談の上進めていきたい。（産業振興部）

1-2-1 林業基盤の整備と適正な維持管理（評価 B）

- 北部地区に太陽光発電ができています。今から阿蘇地域で太陽光発電の計画がなされているようですが、防災についてどう考えているか。北部地区関係で、矢護川に水の公園がありその上にキャンプ場があるが、自然を生かした開発の考えはないか。（委員）
- 太陽光発電については、稼働している部分と計画の部分がある。一部アセスメントに入っているものもある。開発地が山の場合は林地開発の許認可が必要であり、5つの要件を満たせば、県が法に基づいて許可しなければならない。まちでは林地開発や河川・環境の部分で関係各課にて連携した対応を取っていきたい。（産業振興部）
- 防災についてのご質問と認識している。太陽光発電については、再生可能エネルギーということで環境に優しい一方、色んな地域で乱開発の中で災害が起きている現状もある。町としても、太陽光発電については推進していく一方、防災の面から地域の方を守っていくという大きな課題がある。それは、開発する側がきちんと管理をしていくことが重要。これまで、管理が行き届いていなかった現状がある。今後、例えば業者間で協議会なるものをつくっていただいて、地域をどう守っていくかを考えるしくみを検討している。（総務部）
- 仰っていただいたのは、矢護川公園のことかと思う。湧き水が隣の神社の中を流れ、また公園の中を流れていくところにもない素晴らしい公園である。夏から秋にかけては子ども連れの姿も見られる。地元の方に管理いただいている。当該公園については PR 不足であるので、今後力を入れていきたい。（産業振興部）
- そのあたりを利用した登山道の計画はどうか。（委員）
- キャンプ場は、熊本地震で被災したので解体撤去し、現在は矢護山開発にお返ししている。町として整備していく計画は今の時点ではない。登山道についても、被災しておりかなり難しい状況であるので、計画については白紙状態である。（産業振興部）

1-3-1 企業誘致の推進（評価 B）

- 菊陽町では台湾の世界的大企業が進出すること。1兆円以上を投じることだが、それに伴う関連企業の進出も考えられると思うが、大津町の受け入れ体制についてどう考えているのか（委員）
- 隣町でソニーグループと TSMC の進出が大々的に報道されているが、関連企業についての話がかなりあり、しっかりそのあたりを大津町として誘致していけるようにサポートしていきたい。大津町の経済発展及びビジネスチャンスと相乗効果を引き上げるように支援をしていきたい。（産業振興部）
- どうなるか見守っていた。隣という意識でなく大津と繋がっているもので、win-win で何かできないか。今後人の往来も増えるので大津町としても良い機会となる。頑張ってもらいたい。（委員）
- 大津町への工業振興が進んでいく中、交通インフラが変わってくるものと思う。325号と中

九州横断道路の交差したところにインターチェンジができる。そのあたりの道路整備はどうなるのか。半導体の分野では10年の間に産業の変革が起きるものと思うとの話がある。そのような流れを受け、例えば大きなイベントができるような施設（グランメッセのような規模）の建設の検討が必要ではないか。最近では誘致先として合志市が選ばれている。受け皿づくりをどう考えているのか、その方向性を示していただきたい。（委員）

- ご指摘のとおり、大津町は交通の要衝ということで、国道57号、325号、これに併せて中九州の高規格道路のあたりにインターチェンジができるとの話がある。菊陽に台湾の半導体大手メーカーTSMCが国内のソニーさんとデンソーさんと合併会社をつくるのではないかとされている。土地価格の面で大津町は高評価を受けており、全国的にも菊池管内は注目されている。県と連携して企業誘致に積極的に取り組んでいる。しかしながら、既存の工業団地は完売しており、新たな工業団地を作るのか、民間主導でいくのか、町で社会インフラに取り組むのか、今後の方向性を次期計画で示したい。併せて製造業を中心に企業誘致をしていたが、新たにIT関係の誘致にも取り組み、二本柱で誘致をし、既存の製造業との相乗効果でさらなる経済振興を図っていきたい。グランメッセ級の施設は街中での整備はなかなか難しいかと思うが、県内でも菊池地域は注目されているので、県と連携しながら誘致を進めていきたい。（産業振興部）

1-3-2 工業基盤の整備（評価A）

- 特になし

1-3-3 雇用の促進（評価B）

- 特になし

1-4-1 中心市街地の活性化と商業・業務機能の集積（評価B）

- 特になし

1-5-1 観光資源の創出（評価B）

- 特になし

1-5-2 滞在型・体験型観光の振興（評価B）

- 指標に対する所見がここにあるが、ここに取り上げてまとめたものが大元になり、次の計画に活かしていくもの思う。この所見だけでみると、客観的にはそのとおりなのかもしれないが、そこから次にどういう方向にもっていくかがわかるような書きぶりにならなかったのか。（委員）
- もっと踏み込んで施策に生かす所見が必要であったと認識した。指標である年間商品販売額は経済センサスからそのまま持ってきているので、次期計画から改めたい。所見についても改めたい。（産業振興部）
- 資料には「評価の所見及び今後の方向性」との記載がある。確かに今後の方向性がないように感じる。委員のご指摘のとおり。方向性は今後、どのように示されるのか。（委員）
- 観光協会とスポーツ文化コミッションが組織の再編を行っているところであり、次期計画策定までには方向性を決定したい。（産業振興部）
- 今、準備されているものと認識した。（委員）

- 今、南阿蘇鉄道の大津までの延伸も計画されているとのこと、これからは宿泊地としての大津もあるがワーケーションとしてもクローズアップされると思う。大津町は空港とも近いので、大津でステイを含め滞在していただきたい。ワーケーションはどこでやるかも含めて、企業文化がこの地に集積するということは、余暇と仕事をつなぎあわせるなど色々な意味で何か出てくるかと思う。今後の計画にもご配慮いただくよう付け加えさせていただきます。（委員）

1-5-3 スポーツコンベンションの推進（評価 B）

- 特になし

<大綱「2. 福祉・保健」分野について>

2-1-1 地域福祉の充実（評価 B）

- 福祉評価は B が多い状況であるが、職員の皆さんのモチベーションを上げるうえでも、施策評価が上がることで住民サービスの向上につながるものと思う。次期計画では目標の見直しをしていただきたい。（委員）
- 地域福祉の充実では、B 評価とあるが、社会福祉協議会の内容は人材不足の中で住民が安心安全に取り組める状況の支援をされているので、目標値とは別に評価を上げていただければ A 評価になるのではと史料する。社会福祉協議会の取組みは内容的にはしっかりされているものと思う。職員がどれだけ頑張っても B にしかならないのであれば、報われない。全体的に見直しをしていただきたい。（委員）
- 今回、B 評価とした理由は、地域福祉・障がい福祉いずれも最重要課題であるとの認識であり、事柄的には A 評価である。一方、地域福祉においては、地域における災害時の避難計画づくりの推進に取り組んでいるところであるが、コロナ禍ということもあり思うように進めることが出来なかった。より強力な推進、地域へのアプローチの見直しが必要であることから評価を B としたところ。（健康福祉部）
- 避難時要支援者の目標数が 2,200 人と掲げられているが、同居人がおられる方はここから外しているということで、訓練の際、要支援者がほとんど来られなかった。今回は時間が決まっていたので、なかなか難しいところがあった。誰一人災害で犠牲にならないために、災害時避難行動要支援者名簿を活用すべきだが、活用が十分にできていない地域があった。今後、区長会と組んで何かやろうかなと思っているが、意見を伺いながら福祉課とも連携しながら行っていきたい。（委員）
- もう一点、高齢者の関係で、JA さんが警棒をもって回っておられることに感動した。おじいさんやおばあさんが地域に多くいらっしゃる。こうした見守り活動を定期的にやっていただければ、高齢者の安心安全な生活に繋がっていくと思うので是非お願いしたい。（委員）
- 地域で避難計画をつくり、防災訓練まで実践いただいているのが全体の 20%ほどにとどまっている。社会福祉協議会とともに引き続き地域での避難計画策定を推進するため、地域の会合に積極的に参加し、説明していきたい。（健康福祉部）
- この 2,200 という数字はどこから来たのか。（委員）
- 要支援者名簿対象の皆さまが 3,000 人ほどいらっしゃる。そのうち、ご家族と同居されている方は対象外としていることも踏まえ、7 割ほどの 2,200 人を目標としているところ。（健康

福祉部)

2-1-2 障がい福祉の推進 (評価 B)

- 障がい福祉についても、必要な方にご利用いただけよう、さらに周知していくことが求められている分野であり、制度周知等さらなる改善の余地があるため B 評価としている (健康福祉部)
- 障がい者の一般就労移行者数については、希望する人のうち何名が就職したか、ということであれば評価はできると思う。(委員)
- 5 ページのところは、評価と初見、今後の取組みがきちんと書いてあり見やすい。他の書きぶりもそれなりに詳しいと思うが、5 ページの書き方が望ましいと史料する。(委員)

2-2-1 子育て環境の充実 (評価 A)

- 特になし

2-2-2 子育て支援の充実 (評価 A)

- 特になし

2-2-3 子どもを安心して生み育てられる地域づくり (評価 A)

- 特になし

2-3-1 高齢者が活躍する場の充実 (評価 B)

- 通いの場の実施数は目標値が 36 で実績は 21。前の年も低い。なぜ目標値が高いのか。1 カ月に 1 回程度の活動であるが、私の母は 1 回でも楽しみにしている。大津町以外の人に聞くと、月 1 回は少ないとの意見があった。今後、回数や場所を増やすなどをご検討いただきたい。(委員)
- 通いの場の実施数は、高齢者人口の 8 % に近づけることを目標にしている。確かに目標指標を 36 地域にしているが、これは前段として各地域で地域アプリ八事業に取り組んでおり、この事業から通いの場に移行していただくということで数を増やしていきたいと考えている。通いの場については、自立したところで介護予防の推進を身近な場所で行ってほしいと考えている。(健康福祉部)
- 例えば住民が 1 カ月にそういう場所に行っておしゃべりしたり、体操をしたりする時間が増えればよいのではないかと思ったところ。(委員)
- 委員のご発言は回数のご指摘とみたが、ここの指標は場所の実施数となっており、若干のずれがあると思うがいかがか。(委員)
- 通いの場は各地区で回数を決めて実施されている。町で実施しているのは社協にお願いしている運営事業である。通いの場は基本、週に 1 回であるが、地区によっては月に 1 回となっている状況もある。その通いの場を増やしたいので、地域アプリ八に取り組んで通いの場に移行していくという取組みに注力している。集まる場はいくつもあるので、色んな意味で迷われる部分もあると思う。現在、通いの場は 21 あるが、コロナ禍で休止しているところが多く、開始回数も地域によってまちまちである。通いの場は住民主体の取組みなので、できるだけ地域の方で運営していけるための支援をしている。地区の要望に応じてやっているのが現状。

(健康福祉部)

- 出かけていける場所が増えるといいと思う。(委員)
- 参加者数が高齢者人口の8%に近づけるということで目標を36に設定しているが、従前値が3となっている。前の目標が3だったのか。であれば現在は12倍の目標値となっている。数値的に理解しにくい。8%に近づけるには36が必要なのか、では従前値の3は何だったのか。(委員)
- 従前値の3は、前回計画策定時の実績値である。(健康福祉部)
- 改善していくことで目標を挙げたということか。(委員)
- そういう形になる。(健康福祉部)
- 8%は法律で決められているものか。(委員)
- 国の施策でそのように動いている。(健康福祉部)

2-3-2 高齢者福祉サービスの充実と地域包括ケアシステムの推進 (評価 B)

- 認知症の方を発見した場合、役場が休みの時にはどこに電話すればいいのか。先日、休みの日に裸足で歩いている人を見かけたが、どこに連絡したらよいか戸惑った。ご教示いただきたい。(委員)
- 役場に電話いただくと、担当につながる。(健康福祉部)
- 今の話は町民に周知されているか。そういう人を見かけたら、役場に連絡すればよいということを町民に周知しているか。(委員)
- 認知症サポーター講座ではお伝えしている。(健康福祉部)
- 私は受講したが記憶にない。次回からお願いしたい。(委員)
- 承知した。(健康福祉部)
- 高齢者へのサービス関連で同居家族はいるが、日中家族が不在の人は車の運転している現状がある。免許返納を進める取組みはしないのか。運転を続けることの危険性を伝えるべき。乗り合いタクシーには感謝しているが、一方で不安を抱えながら運転している高齢者もいる。返納へのきっかけづくり、啓発に取り組んでいただきたい。(委員)
- 包括支援センターに相談に来庁された際に、ご家族同席のもと免許返納のお話しなどをお伝えしている。返納した後の移送手段の確保については、公共交通担当と協議中であり、今後の対策を検討したい。(健康福祉部)
- 相談に行くことのハードルが高いように思うが。(委員)
- 相談に来られるのを待つだけでなく、積極的にお伝えしていきたい。(健康福祉部)

2-3-3 介護保険制度の円滑な運営

- 特になし

2-4-1 町民の健康づくり (予防・健康管理の充実) (評価 B)

- コロナのワクチン接種は、前回携帯で予約した。3回目の接種の予約について、今後どのように支援されるのか。（委員）
- 3回目のワクチン接種については現在準備中であり、予約方法については前回と同様と考えている。高齢者の方には寄り添っていききたい。（健康福祉部）
- ワクチン接種の予約については、パソコンが苦手な方も多く、高齢者への配慮が必要ではないか。自分自身もうまくいかなかった。町がお手伝いするのか。（委員）
- 高齢者の方々にはずいぶんご迷惑をおかけした。3回目は8カ月経過した方から順次接種券を発送するので、前回のような混乱はないものと思う。十分、支援体制を整えたいと思っている。（健康福祉部）
- 町からの支援はないのか。（委員）
- 次回もネットと電話の2つで対応したいと考えている。ネット予約については、周囲の方にご支援いただければと考えている。（健康福祉部）
- 町の方にもぜひ、お手伝いいただきたい。（委員）
- 前回接種された方は次も同じ病院で接種するはずだが、病院で予約できるようにすればよいのではないか。できればお願いしたい。（委員）
- その件については、内部検討中である。（健康福祉部）

2-4-2 町民の健康づくり（健康づくりの推進）（評価 B）

- 特になし

2-4-3 地域医療との連携拡充（評価 A）

- 特になし

2-4-4 健康保険制度の円滑な運営（評価 B）

- 特になし

④ その他

明日もこの会場にて。欠席される場合にはご連絡いただきたい。